

我がまちの支え合い活動 水島地区

第四 福田

四福地区社協

※第二次小地域福祉活動計画策定



座談会の様子。前向きに「わがまちだからできること」を検討しています。



三世代ふれあいウォーキング（地区社協の事業）の様子。運動しながらの交流で、地域のつながりの希薄化を予防しています。



わがまちの様子

総人口	11,695人
高齢化率	28.62%
高齢者支援センター	水島
地域のトピック	小地域ケア会議には、様々な専門職や団体も多く参加しており、地域住民と専門職との大切な交流の場になっています。

四福地区社協では、平成28年に「誰もが参加でき、笑顔があふれ、安心して暮らしているまち」を目標に、小地域福祉活動計画を策定しました。

この度の計画見直しに合わせて、小地域ケア会議と連携し、高齢者や子育て世代、障がい者など、様々な立場の声を集約しながら第二次計画策定を進めました。コロナ禍でも地域の「困りごと」や「解決方法」などを幅広く把握するため、座談会とアンケートの両方を実施し、前向きに検討できるように工夫しました。

四福地区社協では、今回の計画策定と事業の実施を通して、防災の観点からより地域の住民同士がつながり、困った時に自然に支え合える関係が広がることを目指しています。

※小地域福祉活動計画とは、地域の福祉課題に対して地区社協が計画的に取り組んでいくための中期的な活動計画です。



ひだまり親睦会の様子。顔馴染みの皆さんが集まり、手芸や茶話会で盛り上がっています！

わがまちの様子

総人口	4,424人
高齢化率	32.71%
高齢者支援センター	水島
地域のトピック	小地域ケア会議では、防災をテーマに取り組んでおり、「地域防災」を進めていけるよう検討を重ねています。



世間話が、自然体の見守り合いになっています。



コロナ禍で地区社協の事業もこれまで通りの開催が難しくなり、地域で顔を合わせて交流する機会が減っています。そこで始めたのが、困りごとを抱えている人を地域で支える「居場所づくり」として、※互近助パントリーを活用したフードシェア会（お渡し会）です。食材や生活雑貨の受け渡しから、自然な交流の場になっています。

当日は手芸のサロン（ひだまり親睦会）も同時開催しており、イベントをきっかけに、誰でも気軽に趣味活動や仲間づくり、健康づくりに参加できるような工夫されています。

※互近助パントリープロジェクトについては、P20の下段をご参照ください。

第五 福田

五福地区社協

互近助パントリー



同じ学区の園児や子育て世代の参加もあり、3世代交流の場にもなっています！

わがまちの様子

総人口	2,366人
高齢化率	41.12%
担当高齢者支援センター	水島
地域のトピック	高齢化率が高いことを、「元気な高齢者が多い」と前向きに考え、高齢者が活躍する機会を大切にしています。



コロナ禍では参加者への検温と手指消毒、机をアクリル板で仕切り、感染予防に注意しながら行いました。

愛情たっぷりのメニュー。ポリウムもあり、男性にも喜ばれています！

この活動は、小地域ケア会議のなかで、「地域のつながりが希薄になっている」という声から、地域の人が気軽に集える機会をつくり、孤立をなくすことを目的に始めました。

学区の住民ボランティアが中心となり、ワンコイン（百円）で朝食を提供しています。参加者は学区に限定せず、誰でも好きな時間に参加して自由な時間を過ごす気軽さを大切にしており、多くの人を集めています。

グラウンドゴルフの練習後や百歳体操のサロン帰りに仲間で寄るなど、様々な活用がされており、学区の「交流の場」、「元気になる憩いの場」になっています。

おしゃべりカフェ



irodori HOMEでの小地域ケア会議の様子。家庭的な雰囲気、世代を問わず落ち着きます。

わがまちの様子

総人口	12,653人
高齢化率	24.56%
高齢者支援センター	福田
地域のトピック	irodori HOMEを拠点に、「ちょいサボ」という生活支援サービス（草取り、電球交換、掃除など）があり、障がいのある人も担い手として活躍しています。



※互近助パントリーの拠点となっており、困りごとを抱えている人にも優しい居場所を目指しています。

「NPO法人彩」が利用者の生活訓練や地域住民が自由に使える場として、地域の居場所を立ち上げました。

普段は調理、洗濯、買い物などの訓練や利用者の余暇活動の充実を図ることを目的に活動していますが、訓練以外の時間帯や空いている曜日は地域に開放し、町内会での活動やサロンをはじめとした趣味活動など、自由に利用できるよう場づくりを進めています。

地域住民に知ってもらえる第一歩として、小地域ケア会議もこの場所で開催しました。コロナ禍でも「人と人」、「人と居場所」がつながる地域のプラットフォームを目指しています。

※互近助パントリープロジェクトについては、P20の下段をご参照ください。

福田

irodori HOME



かたつむりのように家庭（殻）に閉じこもりがちなる人を、「角出せ」、「槍出せ」と地域に連れ出すことを大切にしています。

わがまちの様子

総人口	12,458人
高齢化率	21.43%
高齢者支援センター	福田
地域のトピック	小地域ケア会議では、「緊急連絡カード」の普及や見直しについて定期的に検討しており、見守り体制の強化に力をいれています。



「かわら版」を持って、訪問している様子。ちょっとした立ち話が、1つのサロンのような雰囲気になっています！



平成12年から「地域のなかで身近に集える居場所づくり」を目的として、かたつむりの会は始めました。「みんなおいでんせう、まっとうるけう」を合言葉に、地区の民生委員が中心となり、愛育委員や栄養改善委員など、みんなで一緒に取り組んできました。参加者と一緒に料理を作ったり、脳トレやニュースポーツ、誕生日会など、内容も盛りだくさんで、参加した人からは、「外に出るきっかけになった」という言葉もあり、地域とつながる大切な機会になっています。新型コロナウイルスの影響で集うことが難しくなった際は、今までのサロンの活動をまとめた「かわら版」を作り、参加者一人ひとりにお届けしました。

いきいきサロング新田 かたつむりの会



親子や若い世代の参加もあり、「多世代の交流の場」や「フードロス削減の取り組み」にもなっています。



地域の人から野菜、つながりのある企業から魚の切り身などの提供があり、お弁当も手作りしています。



食材がたくさん提供された際は、加工後に冷凍保存し、次回のフードシェア会にも活用しています。

わがまちの様子

総人口	5,546人
高齢化率	33.47%
高齢者支援センター	福田
地域のトピック	連合町内会、老人会、地区社協など、地域の団体が横でしっかりとつながっており、顔の見える関係づくりが広がっています。

福田 第三

広江地区

フードシェア会

広江地区では、体操や食事会などの通いの場が多くあり、日頃からの健康づくりや交流する機会を大切にしています。コロナ禍でも、地域の有志で「何か活動することができないか」、「住民同士つながりのある交流ができないか」と前向きに考え、毎月一回フードシェア会を開催しています。地域の人の（有志）と一緒に食料品や生活雑貨を集め、「地域愛」と一緒にお渡しをしている人もいます。また、「本場に困っている人は会場に來られない」との思いから、地区の民生委員と連携し、高齢者や見守りが必要ない人に個別訪問してお届けします。



外観は隠れ家のような雰囲気になっており、子どもにとっては秘密基地！秋になるとハロウィンの飾り付けが好評です！



駄菓子で買い物体験をする子どもの姿もあります。「うちサボ」の箱は駄菓子の横に置いてあり、気軽に寄付できるよう工夫しています。



連島東

地域の駄菓子屋 うっちい

わがまちの様子

総人口	7, 874人
高齢化率	25. 45%
高齢者支援センター	連島
地域のトピック	地区社協が主催で、学区全体を対象とした避難訓練を毎年行っており、防災意識が高い地域です。

子どもや親子がこころの敷居を低く、ふらっと寄れる場所として、駄菓子屋を活用した居場所づくりを行っているのが、「うっちい」です。毎日昼間の時間帯に開いており、近所の人や他地区の親子なども来ています。用事がなくても、寄って話して帰る人もいて、地域の大切な情報交換の場にもなっています。

また、地域の「何かしたい」という気持ちと、「困りごと」をつなぐ取り組みとして、「うちサボ」を始めました。駄菓子屋を寄付できる箱を用意し、ある程度集まったら、こども食堂などに届けられます。ちよつとした思いやり（支え合い）が駄菓子を通してつながっていきます。



活動（キャンドル作り、囲碁ボール）の様子。参加者の声を聞きながら、内容を工夫しています。



他の曜日には手芸のサロンも行っており、通える場所がたくさんあります！



旭丘

そよ風の会

わがまちの様子

総人口	5, 296人
高齢化率	27. 85%
高齢者支援センター	連島
地域のトピック	住民主体の通いの場が学区に多くあり、体操や手芸、専門職を招いての講話など内容も様々で、参加者の生きがいづくりにつながっています。

江長地区では顔馴染みの皆さんが毎週一回集まり、歌や体操、手芸や季節行事などを行っています。

参加者同士で声をかけ合い、「誰が来て、いつ帰っても大丈夫」を大切にしながら活動しており、居心地の良さから他地区から定期的に参加する人も見られます。

また、日頃から参加者の「できること」を自然におすそ分けしており、楽しみながら参加するだけではなく、趣味や得意なことを披露する場にもなっています。

参加者のなかには、民生委員もいて、場を通じた見守り活動にもなっています。



デイサービスのレクリエーションで使われる物品は、子どもにも大人気！お弁当の完成を待つ時間も、わいわいと盛り上がっています。

わがまちの様子

総人口	5,768人
高齢化率	26.8%
高齢者支援センター	連島
地域のトピック	令和3年度に愛育委員が中心となり、「くらしきまち歩き」と歩きマップの更新を行いました。今後は学区全体で防災マップの作成も検討しています。



顔馴染みのスタッフが笑顔で出迎え、会場は温かい雰囲気包まれます。

デイサービスの事業所が地域貢献活動として、地域住民にも参加してもらいながら、こども食堂を始めました。「親子が安心できる場所や多世代が自然に交流する場所を地域に少しでも増やしたい」との思いから、毎週一回開催しています。また、立ち上げに向けた打ち合わせから、地区の民生委員にも協力してもらい、高齢者や障がい者なども参加しやすいよう工夫されています。

当日はデイサービスの職員の有志とボランティアがお弁当を作り、おしゃべりしながらお渡しをしています。毎週の交流の積み重ねが顔の見える関係につながっています。

こども食堂 めぐりあい



多世代交流ゆいまーるの活動1周年記念では、約170食のお弁当を手作りしました！

わがまちの様子

総人口	6,459人
高齢化率	32.19%
高齢者支援センター	連島
地域のトピック	「西町笑天楽寿会」という男性中心の通いの場があり、食事を通じた交流や地域に向けた支え合いの取り組みが広がっています。



企業や地域から食材の提供があり、地域食堂やお弁当配達で活用されています。



「～しながら」の交流から「本音」がこぼれ、こころの壁が自然になくなります。

「食事」や「体験活動」を通じた居場所づくりを目的に、「多世代交流ゆいまーる」の名前で地域食堂を行っています。調理から配膳まで、多世代のボランティアに協力してもらい、アクティブシニアの活躍の場にもなっています。また、餅つきをはじめとした季節の行事や、誰でも楽しめるワークショップなどの体験活動を毎月行い、「体験」から「居場所」につながる取り組みも大切に行っています。

他にも、様々な理由で参加することが難しい子育て世代に向けた取り組みとして、「産前産後のお弁当配達」を行っています。「来られないなら出向く」という支え合いが、地区を超えて広がっています。

多世代交流ゆいまーる



薬剤師による講話の様子。手洗い講座も行い、体験しながら楽しく学んでいます。



口伝で参加者が増え、現在は40～50名の参加があります。

お土産と一緒に、気にかかけ合い、支え合いが広がります。



連島南学区 健康サロン 絆

わがまちの様子

総人口	13,153人
高齢化率	23.91%
高齢者支援センター	連島
地域のトピック	連島南公民館を拠点に、高齢者サロンや子育てサロンが行われており、多世代の交流の場になっています。

連島南学区の愛育委員会では「仲間づくり」と「健康づくり」を目的として、毎月一回健康サロンを開催しています。馴染みのある曲に自作の振り付けをした「あっぱれ絆体操」、講師を招いての健康講話やレクリエーション、料理教室やニュースポーツなど、内容も盛りだくさんです。また、学区に係らず誰でも参加できるようにしており、新しい仲間との出会いの場にもなっています。

コロナ禍を背景に、薬剤師会による感染症予防の講話を行ったり、茶話会を持ち帰りできるお土産に変更したりと、工夫しながら継続してきました。地域の大切な居場所として紡いだ「絆」は、コロナ禍でも人と人との「つながり」を途切れさせない活動にもなっています。



リース作りの様子。各自が持ち寄った材料で自由に作ります。



地域の人から提供され、種類も豊富です！ゆったりと落ち着いた空間が広がっています。

わがまちの様子

総人口	1,432人
高齢化率	15.36%
高齢者支援センター	連島
地域のトピック	集会所では、「一輪の花」という生け花のふれあいサロンも定期的に行われ、世代間交流の場になっています。

霞丘コミュニティ協議会の部会の一つとして、本を活用しながら、地域住民のつながりづくりを応援しています。月3回程度、地区の集会所を開放し、その場で読んだり、貸し出しまで行っています。希望があれば、新しい本もその都度追加しており、地域の思いを大切にしています。

また、開催日に合わせて事前に独居高齢者などには声掛けし、参加しやすい工夫もしています。本以外にも季節に合わせて手芸や茶話会なども行っており、閉じこもり予防や「こころ」と「からだ」の健康づくりが楽しく続く、地域の拠点（通いの場）それがブックガーデンです。

ブックガーデン

連島北

P i n P i n 倶楽部



体操後のストレッチの様子。DVDを見ながら身体をほぐしたり、参加者が他のサロンや教室で教えてもらった柔軟体操などを皆さんと一緒にしています。

わがまちの様子

総人口	1,481人
高齢化率	40.85%
高齢者支援センター	倉敷西
地域のトピック	憩の家では、体操、ヨガ、ストレッチ、茶話会など、様々な通いの場が週替わりで行われており、地域の健康を支える大切な拠点になっています。



トレッキングの様子。参加者がお弁当を手作りし、屋外での食事を楽しんでいます。コースも毎回変更して、飽きない工夫をしています。



憩の家で月2回、健康づくりを目的に体操やストレッチを行っています。ひとりでは続けるのが難しい体操も、気心知れた皆さんで集まると、「元氣」と「笑顔」を分け合う場になります。

参加者の有志で始まったウォーキングは、しだいに健康志向を高めます。「楽しみ」や「わくわく感」と一緒に、参加者の身体に合わせた健康づくりが続くよう工夫しています。

また、参加者の持ち寄り、ゆつくりとおしゃべりすることもあり、自然にお互いの暮らしの時間を把握する場にもなっています。

ささえあいのぽいんと その2

「互近助の底力！」～くらしき互近助パントリープロジェクト～

互いに近所で助け合うことを目的としたこのプロジェクトは個人・団体・企業等から寄せられた食材や生活雑貨を活用し、地域に応じた手づくりの支え合い活動を生み出しています。活動を行う「互近助パントリーサポーター」の数もどんどん増えており、活動を通して発見した困りごとは、相談・支援機関と早い段階で連携し解決を目指すことができます。

1

食材・生活雑貨の提供者を募集

支援物品を託すというボランティア・公益活動

2

互近助パントリーサポーターの募集と活動支援

支援物品を活用した地域に応じた支え合い活動の創出

社協が
つなぎます



3

相談・支援機関との連携

パントリーサポーターの活動を通して発見した困りごとを早期に相談・対応

見えてきた効果

- ① 支援物品の提供件数
【約200件】
- ② パントリーサポーターとして始まった支え合い活動
【70か所】
 - ・子ども食堂
 - ・困りごと相談窓口
 - ・見守り訪問等

※令和4年2月3日現在